

<Vol. 108 の記事>

報 告 駒場体育館の指定管理者に選定されました！
連 載 フレイバック20年⑤ - 1991年 - 浦スポ元年

市民の幸せを育む駒場体育館を目指して

2010年4月から開始

会員の皆様にもなじみの深い、駒場体育館の指定管理者(期間は2010年4月～2014年3月の4年間)について、昨年8月に公募があり、浦スポは、スーパーアリーナや浦和西体育館での管理実績のある株式会社埼玉シミズとJVを組み、企画提案を提出していました。

昨年11～12月に行なわれた選定委員会及び市の議会審議を経て、駒場体育館の指定管理者に選定され、年末に通知を受けました。

指定管理者制度とは

これまで地方公共団体や外郭団体に限定していた公の施設の管理・運営を、株式会社をはじめとした営利企業・財団法人・NPO法人・市民グループなど法人その他の団体に包括的に代行させることができる制度です。

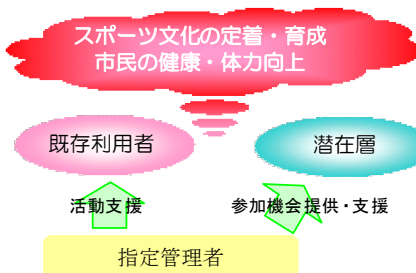
一定のルールのもと、民間ならではの創意工夫をとり入れ、サービスの向上や施設の活用を図れるものとして期待されている仕組みです。

スポーツ文化の定着・育成！

私達JVでは、企画提案の中で、以下の方針を掲げています。

さいたま市スポーツ振興プランの具現化

公共施設である駒場体育館の施設をフル活用し、一人でも多くの市民が「人類の共通財産であるスポーツ」に関わる喜びを体感！



地域コミュニティの活性化

単に利用者に施設を貸し出すという考えから脱却し、地域住民の地域住民による地域住民のための交流の場となる体育館を作り上げ、スポーツに関わる人が増え、スポーツの価値が向上するとともに、地域のコミュニケーションを活性化することで地域力の向上に寄与。

質の高いホスピタリティとプログラムの提供

スポーツ指導やスポーツ科学の専門的知見、施設運営管理

の効率化に関する経験など、JVの持つ特性を活用し、既存利用者、新規利用者との良好な関係を築き、誰もが気軽に駒場体育館に来館でき、スポーツに親しむことが出来るよう高次元のホスピタリティを提供。

浦スポは、営利団体ではないので、指定管理事業により利益をあげていくわけではありません。むしろ、クラブに参加するいろいろな会員の方々の能力を発揮していただき、30年以上にわたりお世話になってきた駒場体育館への恩返しの意味も含め、多くの市民の方に「駒場体育館っていいよね」と言ってもらえる空間と時間、仲間づくりをしていきたいと考えています。

会員の皆さんからの応援を、よろしくお願いいたします！

第16回 浦和スポーツ塾

『スポーツ指導の12章』

日時：2010年2月20日(土) 18時半～

場所：県立浦和高校同窓会館

講師：松本光弘 平成国際大学スポーツ科学研究所教授
(財)日本サッカー協会参与、前規律・フェアプレー委員長、筑波大学サッカー部前監督でもあり、日本のサッカー指導者育成の中心的存在であった立場から、発育期のスポーツ指導のあり方、指導者の姿勢、保護者の関わり方などについて概説する。指導者・保護者必聴！

さいたま市芝生化 その後・・・

年末年始にかけて、前号で紹介した保育園の園庭をみてきました。残念ながら、3園とも、芝生は順調に育っているとは言い難い状況でした(写真は大成東保育園)。

園庭がせまい(人数が多くて)ことが原因か、管理がうまくできなかったことが原因なのかは不明です。

「失敗は成功の素」とすべく情報を共有して、次の成功につなげたいものです。

芝生が目的ではなくて、みんなが思い切り体を動かせる環境づくりが目的なことを忘れないようにしていきたいと思います。



生涯スポーツ全国会議がさいたままで開催

特別講演は 養老孟子教授「スポーツと脳」

生涯スポーツの振興を目的に開催されてきた「生涯スポーツ全国会議」。今年度は、さいたま市での開催です。

特別講演は、「ハカの壁」の著者、脳の研究で知られる養老孟子東京大学名誉教授！

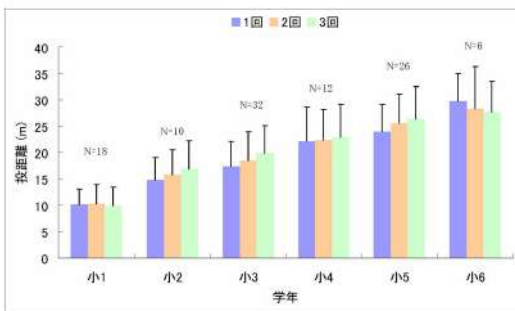
さらに、分科会の1つは、黒須充福島大学教授のコーディネートのもと、岐阜県神戸町の神戸スポーツクラブから小倉氏をはじめ、全国各地の総合型クラブからのゲストをむかえて「総合型クラブの設立効果と今後の課題」について話しあわれます。

このほか、「スポーツ実施率の向上につながる楽しさを重視した指導法」など、興味深いテーマの分科会が開催されます。地元さいたまでの開催のこの機会に、ぜひご参加ください。

日時：2月4日(木) 10時~16時半
場所：浦和ロイヤルパインズホテル
参加費：2000円

投力向上プロジェクト

9月から始まった投力向上プロジェクト（文部科学省委託 総合的な放課後対策推進のための調査研究事業）も、コーチ陣の協力と子ども達の熱心な取り組みのもと、もうすぐ終了する予定です。



サッカー広場では、これまで3回の測定を行なってきましたが、その効果が現れてきているようです。

中間段階にはなりますが、埼玉県主催の「子どもの体力向上フォーラム」において成果発表を行なうこととなりました。

基調講演は、新しいトレーニング方法「真下投げ」で注目されている東京大学大学院 助教 伊藤博一氏です。お子様の野球のトレーニング方法などに関心のある方には、とても参考になると思います。

日時 2月10日(水) 13:30~16:40
会場 さいたま市文化センター 南浦和駅徒歩5分

プレイバック浦スポ 1991年

プレイバック浦スポの5回目は、クラブの設立された1991年を振り返ります。

●設立総会 1991. 9. 29

1991年9月29日、埼玉県民健康センターを会場に、クラブの設立総会が開催されました（これに先立ち、8/22には記者クラブで会見が行なわれています）。

翌年のJリーグ開催をひかえて日本サッカー界が盛り上がる中、伝統ある浦和のサッカーを中心としたヨーロッパスタイルのスポーツクラブを創り上げるべく、倉持守三郎前理事長を中心に、市内のサッカー関係者のみならず、県内政財界からも高い理解と関心を持つ方々の数多くの協力のもとスタートしたものです。



設立総会の基調講演は、日本サッカー協会副会長岡野俊一郎氏（現在 最高顧問）、来賓のご挨拶には、埼玉県知事畑和氏（故人）にもお越しいただいています。

●浦和レッズとの共同

クラブは1990年の1月から設立準備の会合を進めてきましたが、やや遅れて、「浦和プロサッカー球団をつくろう会」の活動が展開されるようになり、1991年、三菱自動車工業（浦和REDS）がホームタウンとして浦和に来ることが決定しました。

当時、Jリーグの参加条件には、ユース部門とサテライトチームを傘下に持つことが義務付けられていたものの、当時の三菱には下部組織がなかったことから、同地域で同じ主旨で競合する活動を組織することを避け、協力関係を持つこととなったものです。

その後、この協力関係は1996年3月まで継続、浦スポのU15、U18にはレッズから指導者スタッフが参加し、その成果は、1995年の高円宮杯全日本ユース（U15）選手権における全国優勝にまで結びつきました。



2009年度も、浦和スポーツクラブでは、総合型地域スポーツクラブ活動助成を受けて活動しています。